Rice Lodge Ogata

提携米通信

2019年7月号・黒瀬農舎

手作りの新型除草機・期待を超える傑作でした。

都から遠い当地にも「人手不足」がやって来ました。重労働の「除草機掛け作業」のバイトさんは、もう見つからなくなりました。窮余の末、乗用の除草機を冬に作りました。工夫に工夫を重ね汗と知恵の結晶の作品です。期待以上の成功でした。2019.6.4 撮影

春を飛び越え、直ぐに夏が来た今年。稲は順調・雑草も元気です。

今年の田植えは、絶好の天候の中終えましたが、その好天は、早々と関東にやってきた台風３号による、まとまった雨が降る６月末までずっと続きました。

こんなに好天が続くことは、私が百姓を始めて４０数年の間、経験したことはありません。

八郎湖の水は豊富で、湖より低い当地の田圃は、いくら干天が続いても「水不足」の心配はありません。

また、田圃の周囲などにも除草剤を使わない私たちは、畦草刈りにも追われますが、今年は干天によって、畦草が水不足で生育不良、ほとんど伸びません。

用水を溜池などに頼っていて、水不足で悲鳴をあげている方々には申し訳ない気持ちがこみ上げてきますが、今までの時期に限れば、稲の生育もすこぶる順調で、とても快調にお米作りが出来ています。でも、秋までの道のりはまだ遠く、今後が気掛かりです。

ところで、冬に手掛けた、自作の新型除草機は予想以上の性能を発揮しており、また、山形県舟方町の鴨農場から応援に駆け付けてくれたマガモ軍団も大活躍してくれていますが、田圃の中の雑草は、好天続きで、いつも以上にグングン伸びてきます。高齢化で一昔前に比べれば数分の一に減った草取りパートさんには、６月末から頑張って頂いています。

田植え時期以降は、マガモ君の世話や除草機掛け、そして、鉄鋼工作に早朝から夜遅くまでの毎日ですが、こんな愉しい仕事が続けられるのは、安全で安心できるお米を利用し、応援下さるエシカルなライフスタイルをお持ちの皆さんのお陰です。

皆さんのご期待に応えられるように感謝しながら秋まで頑張ります。

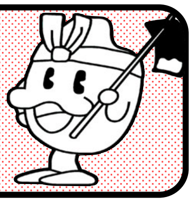
提携米 黒瀬農舎

〒０１０－０４４５
秋田県南秋田郡大潟村西１丁目４の７

黒瀬　正・友基

TEL：0185-45-3088　FAX：45-2887

E-mail：akita@kurose.com　Web：提携米 黒瀬農舎　検索



☆我が農舎は、電話受付の専任スタッフはおりません。日中は倉庫作業等で、留守電受付けが多くなりますが、ご了承お願いします。
★電話は、日祭日や、夜間もＯＫです。
☆お米のご贈答利用も宜しくお願いします。

★黒瀬農舎からの返信メールが自動的に迷惑メールフォルダに分類されていることがあるようです。返信のメールが届かない場合は迷惑メールフォルダの確認やメールの設定をご確認下さい。

★宅配便運賃の値上がりに伴い、複数の運送会社を使うことに致しました。そのため、出荷日／サイズ／お届け先によっては、以前（前回）と運送会社が異なることがあります。ご了承下さい。

乗用除草機製作･汗と喜び･･･開発の秘話あれこれ

日本のどこもが、一般栽培では除草剤がふんだんに撒かれる時代ですが、有機栽培の米作りは、農薬は一切使いません。この無農薬のお米作りをする場合、一番大変なことは雑草対策です。

「雑草対策は簡単だ！」と自慢する無農薬栽培を行う生産者が希におられますが、それはたまたま成功した年があっただけか、それもないままの自己顕示欲の強い法螺吹きタイプのほぼ嘘話しです。

また、何もしない「自然栽培」が、もて囃されることがありますが、草にまみれた作物は、病気や害虫にも侵され、ほぼ壊滅します。、普遍性や実用性はなく、これも、ほぼ嘘です。

本来、農業・作物作りは、半世紀近く前に「除草剤」ができるまで、草との闘いでした。

いまも、無農薬の雑草対策は難問です。一発に効く特効薬（方法）は全くありません。幾つもの方法を組み合わせるなど工夫に工夫を重ねて「しのぐ」しかないのが実情です。

２０１７．６．１１撮影

歩行型の除草機掛けは重労働

歩行式の除草機掛けは、体力とコツがいります。一昨年、名門の能代工業バスケット部ＯＢがバイトに来てくれました。体格も運動神経も体力もありましたが、ぜんぜんダメでした。

一方、この年の６月には、神奈川の「やまゆり生協」の元職員・吉原君が人手不足をみかねて応援に来てくれました。吉原君は都会育ちなのに才能があり、とても上手でした。

でも、当地でも昨年頃より人手不足が深刻化。除草機掛けバイトはもう見つけるのは困難になりました。

無農薬栽培の極意は、雑草を取るよりも先に、雑草の発生を抑える対策です。水を深めに管理する。田圃を限りなく平らに保つ。代かき対策etc。これらの組み合わせで雑草発生の６割程度を減らす。

残る４割が、雑草が出てからの対策。除草機、鴨などの放鳥、人手の草取りなどを念入りに行います。・・・・・これらを効率、的確にどうのように組み合わせるかが鍵になります。

これらは、今年成功しても、天候が変った翌年は、同じ作業手順では大失敗ともなります。大変なことですが、これがまた愉しいことでもあるのです。

その中で、除草機掛け作業は、一番の重労働です。この２０年余りバイトの若者で乗り切って来ましたが、バイトは見つからなくなり、窮余の策で、自作除草機製作となったものです。

除草機掛け作業は、他の作業と同様、田圃を観察して「適期」と判断したのに、それより３日遅れれば、雑草は倍も残ります。

適期作業が必要な大面積の無農薬栽培では、バイト探しが難しい中、歩行型除草機はもう無理となりました。

一方乗用型の除草機は、幾つも農機具メーカーが売っていますが、当地のぬかるんだ地盤の悪い田圃で使える物はありません。

そこで、上の写真の、今まで使っていた軽い歩行型の除草機を、旋回能力が高く、前に作業機を取り付け可能な、特殊な軽い田植え機にセッテングする工作を行いました。

このベースにした田植え機は３０年ほど前のヤンマー農機の製品ですが、すでに２０年余り前に廃盤。

２０１９．６．１０撮影

日本中を探し、青森の十和田市に１台中古機がある情報を得て、２０万円也で持ち帰りました。鉄鋼材を加工しセッティングし、前の車輪は、沈み難いクボタ製の空気入れタイヤの中古を見つけて交換。これで、１番除草は表紙の写真のように大成功。

しかし、２番除草に入ると右の写真のように後輪がだんだん沈み、沈車。ワイヤーで引き上げの連続。

そこで後輪も大きい空気入れタイヤに交換してクリアー。次に、３番除草に入ると、前輪も沈んできた。そこで、前輪は、もう一本空気入りタイヤを増やし、Ｗ車輪に改造。これでやっとほぼ完成。

鉄を切ったり、削ったり、穴を開けたり、溶接したりで冬に製作したが、田圃に入れると条件によって、更なる改良が必要。車輪交換といっても、ホイルの形状など全く異なり、根本的に改修が必要。部品や材料探しに奔走し、工作は時には夜中まで。寝るのは午前３時の日もありました。◎息子は少し太め、体重が１００Ｋｇ。来年の改良テーマの第一は、沈まないように騎手減量です。

２０１９．６．１２撮影

２０１９．６．２４撮影